



A - S o - B i - M a - S h o

Principal Yoji Hatano

The third term was off to a good start, but by the end of the second week, the number of influenza cases had risen and 3 classes had closed in January. Please take care of yourselves at home to prevent contracting the flu.

Do you know about the "Yamaguchi-sanchi no Tsutomu-kun" craze back in 1975? It started off when a girl was worried about her childhood friend Tsutomu Yamaguchi and was trying to cheer him up by inviting him out to play. Tsutomu declined her invitation by replying "A-to-de" (a way of saying "later" with elongated syllables). Children back then used this kind of simple phrasing all the time. I too would stand in front of my friend's house and call out, "A-so-bi-ma-sho!" ("Let's play!") when I wanted to play. My friend would reply with "Ha-i" or "A-to-de." During recess, when I wanted to join my friends' circle, I'd say, "I-re-te!" ("Let me in") and then go in. Even outside of school, if I went to a shop, I would say "Ku-da-sai" ("Please") to the clerk. Communication skills were naturally acquired through this kind of speaking; but now acquisition has become more difficult. Trying to communicate only with limited groups of people with whom you get along is nothing more than just arbitrarily transmitting your thoughts.

There are often cases during recess when a group of children are playing and someone new wants to join but no one notices. Children also run into trouble when they are playing a game together but some people play by different rules.

Communication skills are indispensable. Even adults have to communicate in order to perform well at their job. Soccer players apparently must take communication tests in order to remain in the top league. In order to improve our children's communication skills, it is important, even at home, to create occasions for them to greet others sincerely, to chat, to interact with different types of people, and to answer questions in complete sentences.

February

Date	Day	Events	After-school
1	F	Safety lesson	3 - 6
2	Sa	Japanese Culture	X
3	Su		
4	M	Open school, Committee	5 - 6
5	Tu	Open school, Morals class and discussion	X
6	W	4 periods	X
7	Th	Student assembly, Emerg. evac. drill	4 - 6
8	F		3 - 6
9	Sa		
10	Su		
11	M	National Foundation Day	
12	Tu		3 - 6
13	W		X
14	Th	Music assembly	4 - 6
15	F		3 - 6
16	Sa	School family play, Japanese Culture	X
17	Su		
18	M	Club (G3 observes, 6 periods)	3 - 6
19	Tu		3 - 6
20	W	International Assembly (3,4 periods)	X
21	Th	PE assembly (upper grades)	4 - 6
22	F	PE assembly (lower grades), New G1 parent-teacher conference, Minato City and Suntory Hall "Enjoy Music" (G4)	3 - 6
23	Sa		
24	Su		
25	M	Committee	5 - 6
26	Tu	Soc. S. trip to Natl. Diet and Edo Mus. (G6), Manabinomori/Ai nursery school visit (G1)	3 - 6
27	W	4 periods	X
28	Th		4 - 6

February's Goals

Educational Counselor Kazuhiro Kawai

寒さに負けず運動に取り組もう

International Assembly について
国際科担当 山崎 修一

International Assembly は、本校の特色ある行事で、国際科の授業で学んだ成果を発表します。

児童相互の発表と鑑賞のため、特に保護者席はありませんが、参観は可能です。なお、ご参観の際は、児童席後方にてお互いに譲り合って、ご参観くださいませうお願いいたします。

1. 日時・場所と発表する学級

平成31年2月20日(水) 体育館にて

○3時間目(10:45~11:30)

1-1、3-A、5-1、2-1、4-1、6-A

○4時間目(11:35~12:20)

1-2、3-B、5-2、2-1、4-2、6-B

※3年生と6年生は、クラスを解体して学年をAとBの2つのグループに分けて発表します。

2. 発表演目と発表順

1年生 「We're Going on a Bear Hunt」

3年生 「Treasure Hunters」

5年生 「Seasons of Fun」

2年生 「Little Red Riding Hood」

4年生 「Peach Boy」

6年生 「Past & Future」



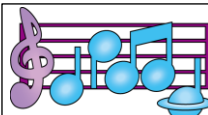
図工について

図工専科 長谷部 雅美

図工は、材料や描きたいものや色や形を考え自分で試行錯誤し、「これを作ろう、描こう」と決められる楽しさがあります。私が、図工の授業を通して育てていきたい子供の姿は、次のとおりです。

1. 「おもしろそうだな」と自分の思いや考えを表すことを喜びと感じられる子供
2. 「何かが生まれそう」とひと工夫することを大切にしている子供
3. 「どうしようかな」と興味を広げたり深めたりしながら、活動にじっくり取り組む子供
4. 「友達の心の中にも何かがおこったんだな」と友達にも表したい思いや考えがあることに気づき、その価値を大切にする子供
5. 「失敗した」と思ってもそこから学ぶことができる子供

東町小学校の子供たちは、世界中のさまざまな国から集まっています。そのため、図工を指導するなかで驚くことや感心することがたくさんあります。デッサンやレイアウトも国際色豊かで様々なバリエーションがあります。これらの特色を生かして、鑑賞の時間には様々な表現を認め合い、学び合うことができる授業をしています。



絶対音感と相対音感

音楽専科 畠中圭一

音楽の授業で「畠中先生って絶対音感あるんですか?」と聞かれたことが何度あります。子供たちのなかで、あるいは世間一般に「絶対音感は音楽に長けた天才がもっているもの」というようなイメージがあると感じます。たしかに、雨音やクーラーの音まですべてドレミの音名で聞こえるという稀有な方もいるようですが、もちろん絶対音感にも程度があり、私は楽器の音であれば固有の音名で識別することができる程度の絶対音感持ちです。

一方で、相対音感というものも存在します。これは、基準となる音との比較によって音の高さを識別する能力です。これも程度によりますが、特別な音楽教育の有無に関わらず、相対音感ほぼ全員にもともと備わっている力です。実は、歌や楽器の演奏をする上では、この相対音感の方がとても重要です。旋律の流れを包括的に把握したり、誰かが鳴らした音に対して気持ちのいい音を探して出したり、合唱で上手くハモることができたりする力は、すべて相対音感によるものです。音楽の力を伸ばすためには、この相対音感を鍛えていくことの方が重要なのです。

これは、人間関係や社会に置き換えても同じであると感じます。「自分」と「他者」という絶対的な存在がある中で、重要であるのは、どのように関わっていくかです。関わる相手や置かれている環境によって言葉遣いや立ち振る舞いを上手に使い分けてコミュニケーションを取り、自らの責務を果たしていくまさに「相対音感」のような力が社会では重要じゃないでしょうか。そのような観点からも、音楽の学習が音楽だけにとどまらず、そこから子供たちの生き方や考え方に反映できるような授業を心掛けています。

教育相談について

スクールカウンセラー 新井 信子

今年度も毎週火曜日は、新井スクールカウンセラー、宮本スクールカウンセラーが担当して、休み時間や放課後等、多くの子供たちが友達と話す機会があります。少しだけ日常を離れて、自分の話にじっくりと耳を傾けてもらえる時間を得ることで、明るい表情で退室していく子供たちの表情を見ていると、この仕事のやりがいを感じます。時には解決策も一緒に考えます。特に友人関係の問題については、子供たちのOKももらった上で、担任の先生にご相談しながら解決することもあります。大人にとっては「え? 大したことじゃないのに・・・!」と思うようなことでも、意外に子供の世界にとっては「おおごと」のこともあり、丁寧に対応をしていくことが必要なこともあります。もちろん大人が先回りし過ぎたり、干渉し過ぎたりして、子供たち自身で何とかしようとする「成長力」を削がないように配慮しています。

保護者の方々からのご相談もお受けしています。子供たちの行動面や情緒面、発達面など気がかりなことがございましたら、お気軽にご相談ください。事前に担任の先生や、下里養護教諭、副校長を通してご予約ください。

